

街角ズームアップ

近未来に愛をこめて (「女と男のフォーラム」 富士市)



「女と男のフォーラム」(富士・女と男のフォーラム93 実行委員会主催)が十一月六日(土)富士市保健婦人センターで行われました。

今年「生活向上談義」というテーマで、四人のパネラーによるディスカッションと、各分科会で、自由に語り合おうというもの。

過去、四回行われた女性フォーラムの経緯から今年一般公募実行委員二十人のうち、五人が男性、二十代から五十代と幅広い年齢層です。

四月中旬から月に一回行われてきた実行委員会は、気楽に参加できる会議をモットーにしました。五十代の男性実行委員は、「はじめは、こんな会議で大丈夫かなと思っただけ、決まってくもんですね。途中でぬける人もいるし、休む人もいて、でも、家庭的でいいですよ」

横井美由紀実行委員長は、「自主運営ということ、ポスターから、イラスト、講師の交渉等、全部自分達でやっています。まとの冊子も印刷に出すまでやっています」。

今後の課題は、高校生やサラリーマンまでが、気軽に参加できるような委員会づくりをすること。女と男の出会いが広がって大きなネットワークができてくることです。

時代を生きる女(袋井市女性セミナー)

袋井市教育委員会の主催で、八月五日から九月十七日まで、週一回、都合七回、「女性セミナー」が開催されました。

平成五年度のテーマは「時代を生きる女性」現代課題に対応した女性の生き方を探る。

セミナーは第一部と第二部にわかれていて、女性問題を各分野から七項目自選んでいます。

このセミナーは、市の生涯学習事業の一つで、社会参加を希望する女性の、学習活動を援助し、学んだ知識をたんなる知識にとどめず、地域に持ち帰り、地域のリーダーとして生かすという、人材の育成を目標としています。

参加者には、「大変勉強になる」と好評です。働いている人も参加できるようにと、平日の午後七〜八時半まで開催されていますが、「もう少し遅くならないか」という声も聞かれました。また、講義だけでなく、グループワークなどを通して、お互いが知りあえるような企画もしてほしいという要望もありました。

担当の人は

「学ぶことに対する女性のニーズを感じました。市の単独事業としては第一回目なので、一つのテーマを追及するとういよう女性問題からまんべんなくテーマを選出しました。これからは、テーマを絞っていくことと思っています。また、グループワークや実習を取り入れることも検討しています」

課題は公民館などで行われる女性講座などとも有機的に連携して、ネットワークを作っていくことと、二十代の参加者が一・七%と少ないので若い人にも参加してもらえようなものをつくることです。セミナーを受けられる人数は限られていますので、参加した皆さんが、自分の得た知識を地域で生かすような活動をしてもらいたい」と語っていました。

近年、行政主催のこのようなセミナーが増えています。そこで学習したことを、今後どのように生かすかが、女性に投げかけられた課題です。



第6回
「家族と私の老後」
介護実習風景



地球を守りたい！発泡スチロールトレイを回収

発泡スチロールは、不燃物で、土の中に埋めるしかありません。島田市初倉地区では、初倉生活学校（学校生九十人）を中心に、いくつかの婦人グループが連携して、地域ぐるみで発泡スチロールトレイの回収をしています。

「地球環境を守るために、何かできないかと思いい、かさばる発泡スチロールを回収、リサイクルしようと考えました。」と棟葉とし会長さん。

「地元で発泡スチロール回収工場を発見。発泡スチロールは粉碎すると、プラスチックのおもちゃや日用品の原料に、砂やセメントを混ぜると、良質の建築材料となることがわかりました」

そこで、さっそく地域の商工会やスーパーに働きかけ、ステンレス製の回収カゴを製作、スーパー四店舗に置いてもらうことになりました。

平成四年四月、月二回のトレイ回収を開始。回収時には、必ず二人のメンバーが、当番制で立ちあいます。当初は、トレイを洗わずに持ってくる人、カップラーメンの容器など回収でき

ないものを持ってくる人などなど。地域住民も不慣れで、なかなかうまくいきませんでした。一年半経った現在では、若い人からお年寄りまで、とても協力的になりました。

市の清掃局も、全くのボランティアで熱心に活動するメンバーの姿に打たれ、現在では、回収したトレイを無料で工場まで運んでくれるようになりました。

「ぜんぜんお金にはならないけれど、立ちあうことで、心の交流も広がる」

「地球を守るって、どういふことかわからなかったけれど、身近な生活の中から環境をよくすることができると実感した」とメンバーの皆さんが語ってくれました。

最近では、近隣地域からの見学も多く、同じようにトレイ回収を始めた町もあります。これからも、根気強い婦人パワーで地域活動を広げていきたいと、意欲満々です。

連絡先 島田市阪本一、三五三
電話 〇五四七―三八一〇四六七
代表者 棟葉 とし

－初倉生活学校（島田市）－

－JAハイナン吉田すみれ会－

吉田町は、古くから、ウナギの町として知られ、現在は、レタスの栽培にも取り組んでいます。

すみれ会は、三十代から四十代の専業農家のお嫁さんが構成され、現在十五人。三年前から、会員が人のためになる活動をしようという心意気がきっかけとなり、忙しい農業の合間にアルミ缶の回収を年二回行っています。回を追うごとに回収量も増えていきます。そして、その収益で、花の種を買い、苗に育て、保育園や福祉施設に寄付し、喜ばれています。また、空き缶を持参した人には、会員手作りの食用廃油利用固形石けんをプレゼントしています。

町民からも注目され、協力者も増え、予想以上の反響に、会員も町のゴミ問題を働きかけていきたいと意欲的です。

一方、営農にも真剣で、栽培講習会などを実施し、会員は、

「勉強する機会を一回でも多く持ちたい」

「農家の嫁として出荷する時が一番楽しい」

ともすれば、暗いイメージがある農業に、こんなに生き生きと取り組んでいる「すみれ会」。これからの活動が期待されます。

連絡先 榛原郡吉田町片岡二、五四七
電話 〇五四八―三二一―四二五
代表者 高橋 益代

リサイクルの種を育てて

本だな

編集員の選んだ お薦めの本

『新・パートタイマーの60章』

パート労働者の権利については意外と知られていません。この本は、大阪の「働く婦人の悩み一〇番」に寄せられた相談から生まれ、実際の相談事例をもとに、パート労働者の権利がわかりやすく解説されています。すぐに役立つ情報がいっぱい！

寺沢勝子著
労働旬報社



『ジエンターの神話』

性差の研究が、科学という名のもとに、社会的な女性の不平等を招いています。科学者自身の偏見が、研究の方法を誤らせ、データが読み取れないという事実。フェミニニストでもあり、科学者でもある著者が、矛盾点を具体的に指摘しています。

アンファウスト・スターリンク著
池上千寿子訳
工作舎

『銀行員妻のすつけけパートタイマー記』

女が働きつつけるのは、たいへん。だけど働くということとは、生きること。だからこそ何度もつまずきながら、夫とのいさかいを繰り返しながら、あきらめずに働きつつけている人たちがいます。そんな人たちへの著者からの応援歌です。

鈴木恵子著
汐文社



『短編女性文学 近代』

近代の女性作家の短編集。特徴は、それぞれの話に女性文学史がそえられていてその頃の時代背景がよくわかることです。また、明治の女性作家達が、なぜそのような話を書くに至ったか等が、女性学の視点で解説されています。



今井泰子
藪穂子
渡辺澄子著
桜風社

『家族という関係』

今まで、女性の愛は妻として母として生きることにされてきました。このような考え方の女性の問題点を、法律家の目から、データや事例を使って指摘しています。国際家族年を迎え、時代に即したこれからの家族について、もう一度考えさせてくれる内容です。



金城清子著
岩波新書

あざれあ図書室紹介

女性総合センター「あざれあ」二階に女性関連専門図書室があります。この図書室は家族・家庭を核に、婦人問題、福祉、教育、労働、性、女性史研究文献、女性の関わる統計データや行政資料など、現在約一万冊を超える書籍が備えられていて、中でも、近代女性史の研究に欠かせない『婦人年報』や『婦女新聞』などの復刻本が充実していて、手こたえもあって一度見てみると面白いと思います。また、雑誌や県内外のミニコミ紙などもおかれ、様々な情報収集ができることや、婦人問題などの啓発用ビデオの貸出もこの特色の一つです。

さて、女性専門図書といっても女性のみならず、男性にもぜひ読んでほしい本も揃っています。今のところ、この図書室の男性利用者は、二割程度ですが、今後の社会変化などを考えたとき、男性陣にも広くこの図書室が活用されることを願っています。

貸出には、利用者カードを作成しますが、作成時に身分を証明するものを提示してください。一回の貸出は、図書二冊・ビデオ二本まで二週間以内。

来室困難者には、郵送による貸出、返却も可能です。また、テーマや作家などからの検索や、電話でのレファレンスも受けていますので、とにかく、気軽に図書室スタッフに相談を。

開室時間 九：〇〇～一七：〇〇
貸出時間 九：〇〇～一六：三〇
休室日 第一・三・五の日曜日、祝日、年末年始
問い合わせ先 ☎〇五四一―二五五―八七六三

私、あなたの味方です

毎日のくらしの中でこまったこと、
疑問に思うことなど、気軽に電話してみませんか。
静岡県では相談窓口を設置しています。

★総合相談（女性に関わるさまざまな問題についての相談）

・女性総合センター『あざれあ相談室』 054-272-7879

★行政相談（消費生活・身上・法律・交通事故等の相談・県政への意見）

- ・伊豆県行政センター 0558-24-2299
- ・熱海県行政センター 0557-82-2299
- ・東部県行政センター 0559-20-2299
- ・富士県行政センター 0545-63-2299
- ・中部県行政センター 054-252-2299
- ・志太榛原県行政センター 054-645-2299
- ・中遠県行政センター 0538-37-2299
- ・北遠県行政センター 0539-26-2299
- ・西部県行政センター 053-452-2299
- ・交通事故相談所 054-252-9990

★人権・福祉相談（女性の悩み・母子福祉・児童福祉関係の相談）

- ・婦人相談所（中部民生事務所内） 054-286-9217

★働く女性・働きたい女性の相談 就業に関する相談・指導・情報の提供

就業に必要な知識、技術を身につける技術講習等の実施

- ・東部就業婦人センター『働く女性のダイヤル』 0559-20-2047
- ・中部就業婦人センター『働く女性のダイヤル』 054-251-0047
- ・西部就業婦人センター『働く女性のダイヤル』 053-454-0047

★教育・子育て・青少年問題の相談

- ・教育相談センター『ハロー電話ともしび』
沼津地区 0559-31-8686
静岡地区 054-255-8686
浜松地区 053-471-8686
- ・教育相談センター『すこやか電話』
静岡地区 054-273-3715
(乳幼児の子育て、しつけ等全般)
- ・児童相談所『子ども110番』
賀茂地区 0558-23-4152
東部地区 0559-24-4152
中部地区 054-273-4152
西部地区 053-458-4152

★学習施設、文化財、学習機会等情報の提供

- ・生涯学習情報コーナー（県立中央図書館内） 054-262-3757

★その他各地域にある相談機関（子育て、生きがい、健康、介護等の相談）

- ・高齢者総合福祉センター
 - ・精神保健センター
 - ・保健所
- 問い合わせは、あざれあ相談室へ
(054-272-7879)

編集員のつぶやき

いくつになっても、新しいことにトライー自分自身をリフレッシュさせたい私です。
 今年は、編集員として、取材、原稿書きにチャレンジ。一つのことをいろいろな角度でとらえていきたいと思っています。

岩原 雅美

日本語はむずかしい。
 日頃、あまり注意深く文字を読んでいないせい、自分で書いてみると誤字を書いていたりして…。編集会議が開かれることに、新しい発見があって苦しいけれど、楽しみながらやらせていただいています。

久保 和子

ほんやりしていた考えを、はっきりとした考えに。しかも、字数の制限の中で、自己満足でなく誰が読んでもわかる文章にするこのむずかしさ。ほんとうに大変だと痛感しました。
 でも、やりがいはあったなあ！。後半戦にむけて、頑張ります。

荒井 千鶴子



上右から岩原さん、久保さん
 下右から露木さん、荒井さん、渡辺さん

きつかけがなければ、何もできない私。
 「ねっとわあくの編集」というきつかけを与えていただき、学ぶ楽しさ、行動する楽しさを再発見しています。
 これを読む人に、少しでも役立つ冊子になればよいと思うのですが…

渡辺 富子

子育て中心の毎日から、久しぶりに視線を社会に向けてみたら……
 ああ、静岡って、なんて広いんだろ。慣れない仕事に、さびかけた頭は、きりぎり舞いですが、苦しみが楽しみになるよう頑張ります。

露木 麻子

■ 表紙のことば ■



『あざれあ』の開設おめでとうございます。静岡県に女性を核とした活動の場が誕生したことは、時代の流れを敏感に反映させた大きな進歩だと思います。また、女性にこだわらず、男女の調和を図りながら築いていく生活文化という、立体感をもったものの見方が、たのもしく感じます。

その記念すべき第1号（通算23号）の表紙デザインを担当させていただき、心より感謝申し上げます。女性は、社会生活の中で、いろいろな困難な場面に遭遇します。華やかであればあるほど、その内面はどんなにか複雑な思いが交錯していることでしょう。それらを半透明のベールに包んで、ひたむきに生きていると思います。

そんな女性の秘せられた美をデザインしてみました。文字は、手書きの柔らかなラインを活かし、CADでサポートしました。

静岡県デザインセンター
 主査 小杉 思 主 世

ひとひとの広場
 ねっとわあく No.23
 平成5年12月
 編集・発行
 静岡県環境・文化部婦人課
 女性総合センター
 スタッフ

〒420 静岡市馬淵
 1丁目17-1
 ☎〈054〉250-8107

